



5万分の1 地質図幅の新刊

竹田 TAKETA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 小野 晃司(地質部) 松本 恒夫(長崎大)
宮久三千年(愛媛大) 寺岡 易司(地質部)
神戸 信和(地質部)

発行 工業技術院地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

- 「荒城の月」の岡城址で有名な竹田市を中心とする本地域は阿蘇カルデラのすぐ東側に位置し 地質構造的には西南日本の内外両帯にまたがる。先シルル系(?)から第四系までいろんな時代の岩層が分布し 地質が変化に富んでいること各著者がそれぞれの専門分野における多年の研究成果を周辺地域の資料を盛込んで 詳しく記述しているので 報告書は150ページをこえ 質量ともかなり充実している。なお種々の機関で実施された試錐の資料が活用されている。

- 本地域の南東部を占める秩父帯には上部古生界のほか 変成岩・圧砕花崗岩・シルル系・下部白亜系が黒瀬川式構造帯にそって分布しており これらを不整合に覆って第三紀の見立(礫岩)層や祖母山火山岩類が発達し 上記の岩類・地層を

貫く中新世の酸性貫入岩もみられる。この貫入岩に伴って錫・亜鉛・硫化鉄などの鉱床群が形成されている。祖母山火山岩類は 1,000m におよぶ試錐によって確認された傾山カルデラの形成をはさみ 前・後期に大別され それらは更に3分されている。臼杵一八代構造線を境とし 秩父帯の北側には上部白亜系大野川層群が断片的に露出し 本層群の分布する大野川地溝帯は朝地変成・深成岩帯と竹田断層で画されている。

- 新生界としては前述の秩父帯のものほか 中新世中期から更新世前期にかけての溶岩・火砕岩・礫層が大野川地溝帯以北に点々と露出し これらを不整合に覆って阿蘇火山噴出物がほとんど全域にわたり広大な分布を示す。本地域北縁部では後者と相交する九重火山噴出物もみられる。阿蘇火山の噴火活動には4つの大規模なサイクルが識別され それぞれに対応する火砕流堆積物は Aso-1-2-3-4と呼称され これらの間にはより小規模な活動を示す降下火砕物や一部では溶岩が挟まれている。

- 種々の地質系統が分布し しかも典型的な火砕流堆積物がよく発達しているので 竹田地域はよい地質巡検地であり 多数の写真・露頭スケッチ・柱状図・地質図類などが付されている本研究報告書は 適切な巡検案内書となるであろう。

地質ニュース	第276号	8月号
	定価 ¥420	〒50
昭和52年8月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久	
発行所	株式会社 久業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂薬町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	